

# 所 管 事 務 調 査 報 告

平成26年 6 月 24 日

薩摩川内市議会企画経済委員会  
委員長 佃 昌 樹

## 1 調査事項

- (1) 地区コミュニティについて
- (2) 商工業振興について
- (3) 甕島航路・交通運輸について

## 2 調査先

株式会社いろどり（徳島県上勝町）、NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー（徳島県上勝町）、高知県高知市

## 3 調査日

5月7日から9日まで（3日間）

## 4 出席委員

佃委員長、谷津副委員長、川畑委員、森永委員、宮里委員、帯田委員

## 5 調査目的

過疎地における地域資源を生かしたコミュニティビジネスと有償ボランティア輸送の取組事例、併せて中心市街地活性化へ向けた取組内容を調査し、本市における今後の施策展開の課題等を調査する。

## 6 調査概要

### (1) 葉っぱビジネスについて（株式会社いろどり）

上勝町は人口1,774人、高齢化率51.3%と、四国で最も人口が少なく、徳島県内で最も高齢化率が高い町である。このような状況の下、上勝町では、第三セクターの株式会社いろどりが中心となって、日本料理の「つまもの」と呼ばれる季節の葉、花、山菜等を栽培・出荷・販売する葉っぱビジネスを展開している。

これらの生産物は、軽量できれいであり取り扱いやすいため、主に農家の高齢者や女性が従事し、中には年収1,000万円を稼ぐ高齢者もいるほどで、葉っぱビジネスは、年間約2億6,000万円を売り上げる町の基幹産業の一つとなっている。

この事業が成功している背景として、農協が収集した販売単価や出荷数量等のデータを、株式会社いろどりが分析して農家に伝え、農家がこれを基に翌日の生産量や品目の決定をしていることが挙げられる。

農家は、生産量等の決定に当たって、株式会社いろどりが運営するウェブサイト「上勝情報ネットワーク」を、パソコンやタブレット端末を駆使しながら確認している。パソコンは、高齢者でも操作しやすいように工夫されており、また、ウェブサイトでは自分の売上げ順位や販売動向予測等を見ることができ、農家が自ら全国の市場情報を分析している。

このような葉っぱビジネスにより、高齢者の雇用が創出され、生きがいくりにつながっている。その結果として、町内に元気高齢者が増え、老人ホームの利用減少により町営老人ホームが廃止されたことや、後期高齢者医療費が県内で最下位になった等の波及効果があるとのことであった。また、視察者や移住者も増加しており、町全体の更なる発展につながっているとのことであった。

(2) 有償ボランティア輸送事業について（NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー）

上勝町では、過疎化によって町内から民間のバス・タクシー会社が撤退したことに伴い、診療所通所や買い物等のための移動サービスとして上勝町有償ボランティア輸送事業が実施されている。

この事業は、平成15年に町が全国で初めて構造改革特区の認定を受けて開始されたもので、当初は町社会福祉協議会が、現在はNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーが運営している。

運転手は、事前登録を行うが、第二種運転免許所持者又は国土交通大臣認定講習の受講者であること等の要件がある。運行は、デマンド方式で都合のつく登録運転手が自家用車で行う。また、利用者は、年会費を支払って事前登録し、利用の際は走行距離に応じて料金を支払うが、料金はタクシーの半額程度となっている。なお、事業運営に当たって、町からの補助はないとのことであった。

平成24年度実績は、会員数199人、運転手16人、運行回数446回で、会員数及び運行回数は年々減少傾向にあるが、過疎化が進行し交通弱者が多い上勝町にとっては、必要な事業になっているとのことであった。

なお、このような事業は、国の規制緩和により、平成18年から過疎地有償運送として全国で行えるようになったため、上勝町では平成20年にこれに移行した。

(3) 中心市街地活性化の取組について（高知県高知市）

高知市の中心市街地は、平成14年頃から大規模小売店舗の撤退が相次ぎ、居住人口の減少、回遊性の低下等が大きな問題となってきたため、高知市では、平成24年から5年間を期間として高知市中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の活性化政策を実施している。

基本計画は、「新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる」、「街なかの回遊性を向上させる」を目標とし、これらを達成するために具体的な数値目標として、中心市街地の居住人口約2.6%増、空き店舗率1.0%減、歩行者通行量約2.6%増等を設定している。

主要事業として、新図書館等複合施設の整備、アーケードリニューアル事業、おもてなし拠点の魅力向上事業等があり、それぞれの事業の予定箇所、計画実施時期、社会資本整備総合交付金等の国の支援措置も明記されている。

また、中心商店街においては、商店街と地元企業が連携して行う子ども向

けのイベント「OBIBURA KIDS TOWN」、商店街全体を100円ショップに見立てた「100円商店街」、各商店主が講師となって商品のコツなどを教える少人数制ミニ講座の「まちゼミ」等、多くのイベントを実施しており、商店街のファンづくりを目指して様々な工夫をしている。

中心市街地の活性化には、それらを形成している住民の、自分たちのまちは自分たちでつくるという強い意志が重要であり、行政はそれをサポートするという形でなければならないとのことであった。

## 7 所感

- (1) 上勝町の葉っぱビジネスでは、地域資源を生かして、高齢者や女性が主役となって生き生きと生産活動に従事しており、本市のコミュニティビジネスを創出する上でも、参考にしていく必要がある。
- (2) 上勝町の有償ボランティア輸送事業は、町からの補助金はなく利用者負担で成り立っており、柔軟な運行形態が可能であることから、本市におけるデマンド交通の在り方を検討する上で参考となる。
- (3) 本市の中心市街地活性化においても、どのようなビジョンが可能か、綿密な分析と評価を行っていく必要がある。